# 侵襲性歯周炎に対し歯周治療を行った２症例について

松尾早紀

**キーワード**: 侵襲性歯周炎、メインテナンス

**はじめに:** 侵襲性歯周炎は、比較的若い年齢から急速な骨破壊を認める歯周炎である。原因として、特異的病原性細菌の存在や、遺伝子多型が関与すると考えられている。
今回、侵襲性歯周炎を疑う兄弟に対し、歯周療を行った症例を報告する。

**症例１**　**初診：**2008.10.18　患者：17 歳　男性

**主訴と現病歴：** 以前からブラッシング時歯肉からの出血があるが、気になるほどなかった。母親の勧めで来院。

**既往歴：**特記事項なし。

**診査・検査所見：**辺縁歯肉の発赤や腫脹、プロービングデプス 4mm 以上22.3%、出血37.5%を認めた。細菌検査では、Aa 菌、Pg 菌を認めた。

**診断：**侵襲性歯周炎

**治療経過：**歯周基本治療を実施。現在インテナンスに至る。

**症例２**　**初診：**2008.9.27　患者：18 歳　男性

**主訴と現病歴：** たまに歯肉から出血があるが、痛みなどない。母親の勧めで来院

**既往歴：**特記事項なし。

**診査・検査所見：**限局性の骨吸収、辺縁歯肉からの発赤、腫脹、プロービングデプス 4mm 以上48.2%、出血71,4%を認めた。
細菌検査ではAa 菌、Pg 菌を認めた。

**診断：**侵襲性歯周炎

**治療経過：**歯周基本治療を実施。現在インテナンスに至る。

**考察・まとめ：**本症例では、母親も侵襲性歯周炎が疑われた。よって、侵襲性歯周炎が疑われる患者には、家族ぐるみ歯周治療及びメインテナンスが必要と感じた。